繊維ミュージアム

― 公共施設の複合化における新たな博物館・美術館の在り方 ―

Keywords
他機能　複合施設　博物館
美術館　繊維　相互浸透

DZ19158　　上田　大悟

1. はじめに

近年、日本ではさまざま問題から公共施設の複合化が多く見られる。博物館・美術館でも複合化がされ始めている。しかしそれは効率性を重点的に求められた形であり、未だ閉鎖的建築が多い博物館・美術館ではデメリットにもなっている。公共施設の複合化における良さとは一体なんだろうか。

2. 研究背景

2.1　複合化により求めるもの

公共施設の複合化が進む背景には、人口減少・少子高齢化や、それに伴い生産年齢人口の減少などによる財政の悪化。また、現在使われている公共施設の多くは高度経済成長期に建設されたため、大規模改修や更新が必要になる施設老朽化などの問題が挙げられる。このような問題の解決策として

・時代やライフスタイルの変化に対応した公共施設再生
・公共施設のスリム化／機能の再編
・運営の集約化や、ランニングコスト削減

といった、効率性を重視した公共施設の在り方に向かっている。

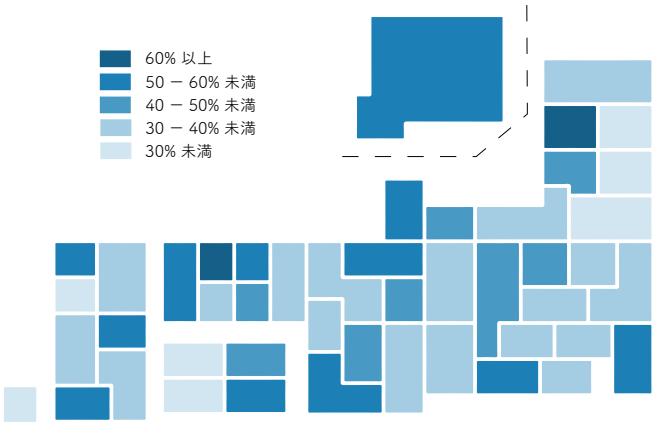


図1 公共施設面積が減少した自治体が多い都道府県

2.2　複合化のメリット

公共施設の複合化により得られるメリットは主に、３つの視点に分類される。

① 担い手の視点
・管理や運営の効率化/ 活性化
・施設管理による財政負担の軽減

② 利用者の視点
・賑わいや楽しさの創出
・多機能の複合による相乗効果／利便性向上
・多世代の交流

③ 建築の視点
・空間／設備の複合利用
・異なる機能の空間が互いに与え合う付加価値

しかし、効率や利便性を求めることで、他機能が複合されていくことで生まれる、空間の豊かさや変化が軽視されている。そのため、閉鎖的であり、一つの機能で空間が完結してしまっている従来の博物館・美術館は、複合化されても他機能を受け付けず、複合化のメリットを活かしきれていない。

3. 研究目的

博物館・美術館は、複合化が進み他機能の受け入れが行われ始めたが、空間を壁で見えないようにしたり、階ごとに分けたりと保守的な空間である。そこで空間に透明性を持たせ、外部からは興味・関心を引き出しながら、内部からは空間が日常的になり居心地の良いものになるなど、他機能と共存し相互作用することで、博物館・美術館が私たちの生活の延長線にあると感じるような複合施設を提案する。

4. 対象敷地

4.1　敷地概要

対象敷地は栃木県小山市小山駅西口前とする。「結城紬」という重要無形文化財やユネスコ無形文化遺産にも指定されている、全て手作業で行う絹織物が有名であり、昔から繊維産業とともに発展してきた街である。

写真1　敷地周辺図

研究指導：山代　悟 教授
Daigo UEDA

4.2　敷地分析

栃木県小山市は、栃木県第2位である人口16.7万人を有し、東北新幹線と3路線が通る交通利便性が高い都市である。この都市は今もなお人口は増加傾向にあるが、中心市街地人口の減少であったり、将来人口推移でも減少が予想されている。

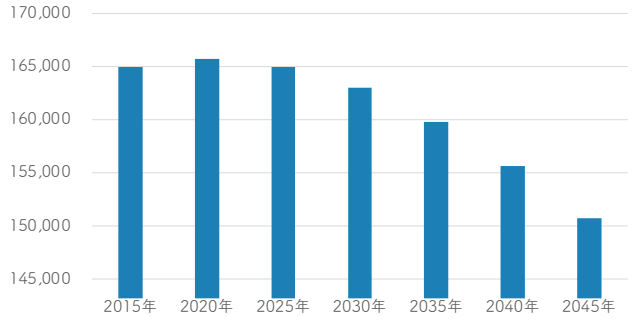


図1　栃木県小山市の将来人口推移

また、人口減少や施設老朽化などの問題から再開発が進められており、大きく都市が変化する分岐点に立っている。そのため、公共施設の集約・複合化などの中長期的な視点を持った取り組みが必要である。

5. 設計概要

5.1　プログラム

敷地面積：6920㎡
建築面積：4830㎡
用途：博物館、美術館、図書館）、多目的ホール）、カフェ、駐車場

5.2　既存要素の集約・複合化

結城紬という特徴を踏まえ、「繊維」を題材とした博物館／美術館を設定し、また複合の可能性が高い公共施設から図書館／多目的ホールと、合った機能を複合させていくことで敷地特有の日常を複合施設に取り入れていく。

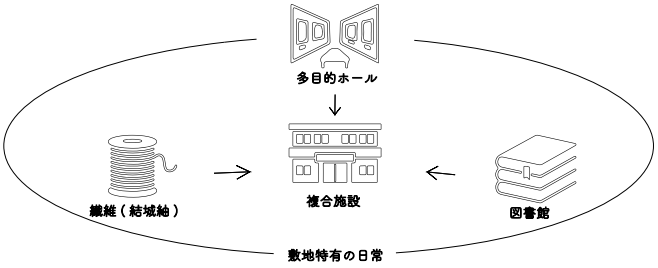


図2 既存要素の取り入れ

5.3　休憩空間での他機能の浸透

博物館や美術館は、歴史的価値のある展示物から学び、学習をすることで現在に活かしていったり、アートから想像・思考することで人間性が豊かになったり何かきっかけを得ることで現在に活かしていくため、共通して現在へのアウトプットがとても重要である。そこで、博物館／美術館の休憩スペースにカフェや図書／勉強機能を入れることで、より深い知識を得たり、会話や学習で知識を整理することができる。また、この機能は複合施設の他機能（日常）であるため、休憩スペースによってより博物館／美術館が日常の延長線に感じることができる。

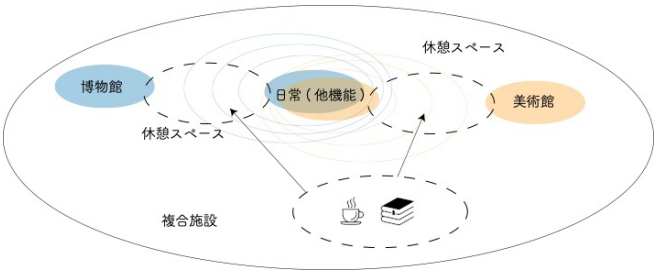


図3 他機能の浸透

5.4　展示空間での他機能浸透

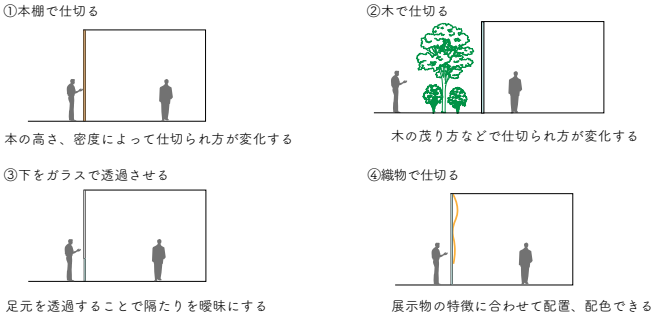


図4 他機能との区切り

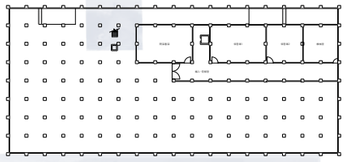
6. おわりに

今後、人口減少・少子高齢化を筆頭に、必ず公共施設の複合化などが当たり前の時代はやってくる。効率的で素晴らしく、とても生活のしやすいものになると思う。しかしデメリットもあり、建築の表現方法は制限されたり、似たような建築が増えていくかもしれない。だからこそ、効率だけでは得られない豊かさを忘れずに、他機能と複合することによってもたらされる良さを忘れずに、コンパクトシティならではの建築の在り方を追求していってほしい。

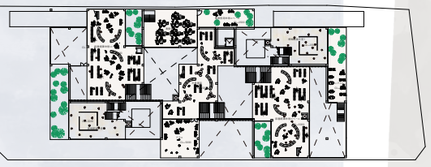
参考文献

1)　まちづくりから考える公共施設の複合
https://www.jeri.or.jp/membership/pdf/research/research_1701_01.pdf

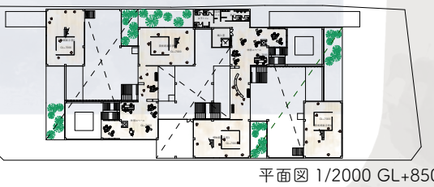
2)　再開発事業による人口増加とまちなかの賑わい創出について
https://www.city.oyama.tochigi.jp/uploaded/attachment/222660.pdf



平面図 1/2000 GL-2000



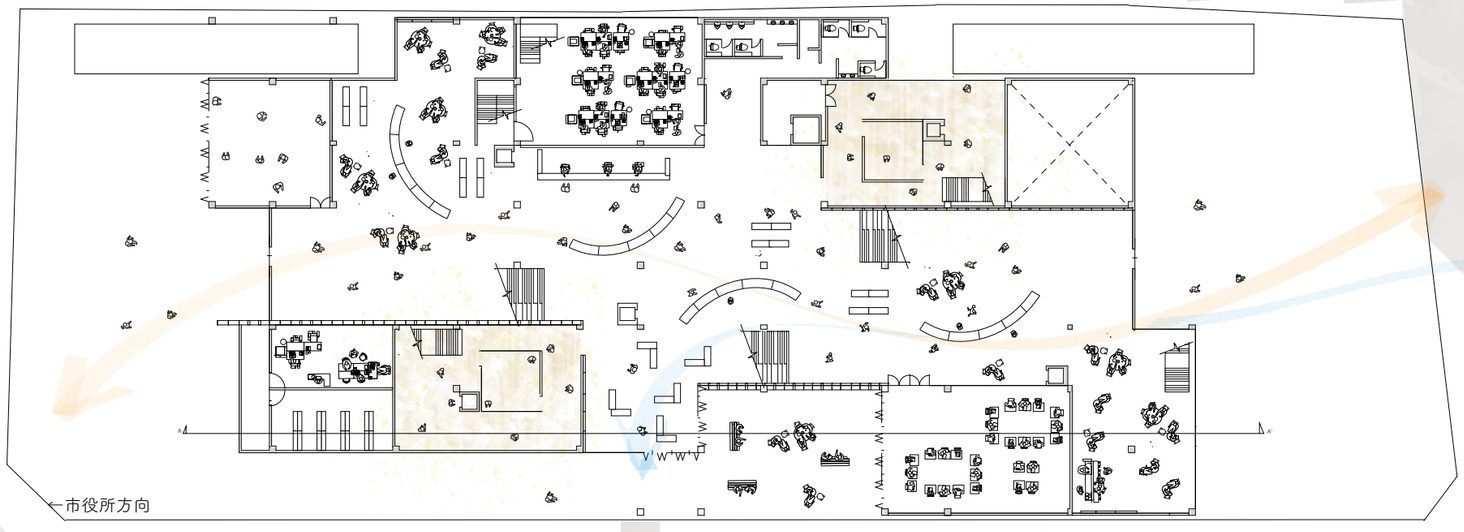
平面図 1/2000 GL+5500



平面図 1/2000 GL+8500

平面図 1/2000 GL+12000

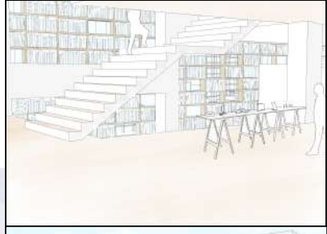
配置兼平面図 1/600 GL+2500

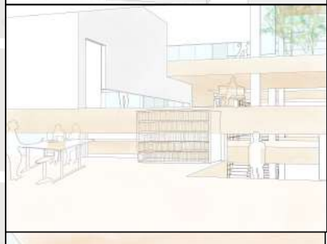


特徴である、小山駅と再開発事業の建を踏まえて、市が力を入れている市役所方向へ通り抜けることができる
道としての役割を持たせることで、外部から日常を取り入れていく。

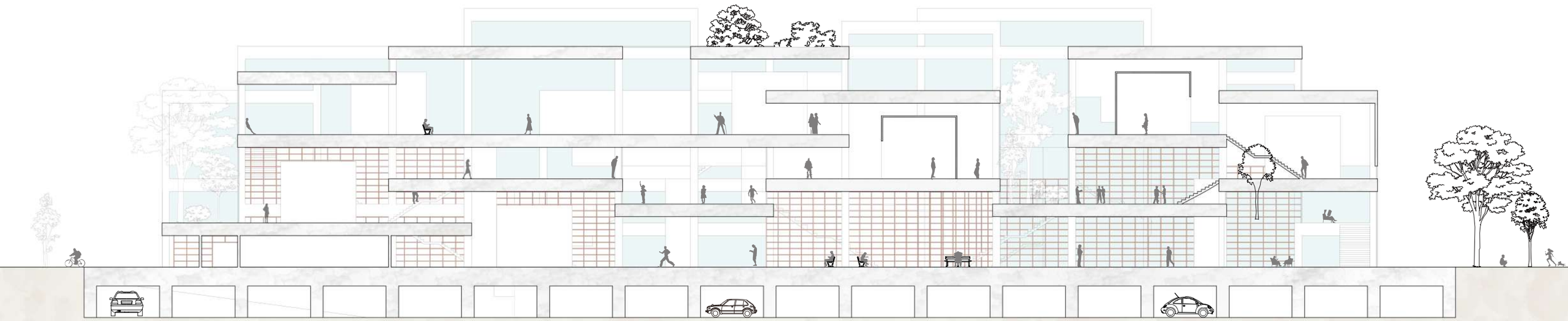
S=1/600

0 10 20 40

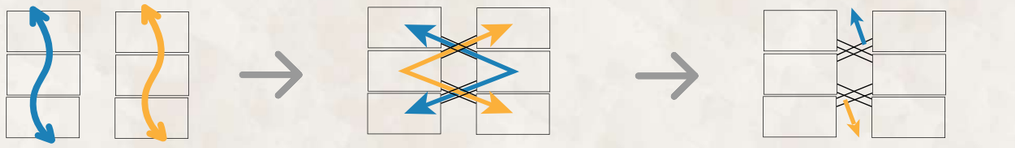




AA′ 断面図 1/300



平面ダイアグラム

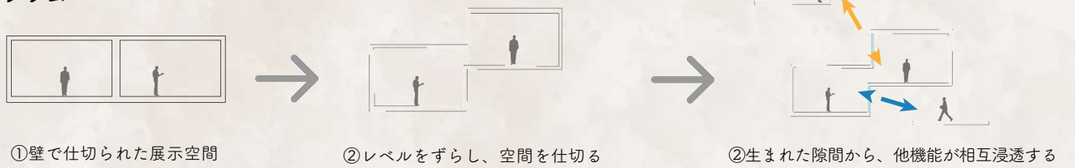


①各々で完結していた博物館／美術館

②展示室を入れ替え、渡り廊下を作る

②無の空間を生み、他機能を受け入れる

断面ダイアグラム



①壁で仕切られた展示空間

②レベルをずらし、空間を仕切る

②生まれた隙間から、他機能が相互浸透する